

第2学年 社会科（地理的分野）学習指導案

深谷市立岡部中学校
教諭 黒澤 一慧

1 単元名 「日本の諸地域」 関東地方

2 単元について

(1) 教材観

本単元は平成29年度告示の中学校学習指導要領(社会編)の地理的分野内容C日本の様々な地域の(3)日本の諸地域を受けて構成されている。日本を幾つかの地域に区分し、自然環境、人口や都市・村落、産業、交通・通信などを中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、日本の諸地域の地域的特色や地域の課題を理解させることにある。今回関東地方を日本の諸地域のまとめ単元として、東北地方を内容C(4)地域の在り方へのつなぎ単元としてそれぞれ配置している。なお本時として扱う関東地方の学習では地域の交通・通信に関する特色ある事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や世界との結び付きなどと関連付けて考える学習を通して、首都機能としての地域的特色とそこから生まれる課題に迫るものである。

(2) 生徒観

・本学年の生徒に年度当初に行った5段階評価アンケートでは、「地理が好き」と答えた生徒は82.1%、「地理がわかる」と答えた生徒は73.2%であった。社会科地理的分野に興味を持っている生徒が多く、知識の理解度も比較的高い状況がうかがえる。

・「授業で好きな展開は何ですか」という問いに、複数選択で答えさせたところ、「資料を読み取って学習課題に迫るもの」、「話し合いや討論をもとにして学習課題に迫るもの」などと回答する生徒が多かった。この学年の生徒は、1年生の地理的分野の学習より、地理的な見方・考え方を働かせながら知識や概念を習得するとともに、資料の読み取り方や複数の資料を比較すること、関連させること、総合的にまとめることなどから思考を整理する学習を積み重ねてきた。習得した知識や概念を活用する場面を想定し単元を設計した。

・生徒が見通しをもって学べるよう単元計画を共有するとともに、単元を貫く学習課題を設定し、単元を通して課題を追究していくような授業を設計してきた。生徒の学びにおいては、知識の伝達ではなく、生徒同士の対話を通して、概念的な知識を習得するとともに、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し表現するような授業への転換を図った。

・本学級は、日常的に対話量が多く、男女間の交流も盛んである。また互いの意見を聞き合う活動の中で支持的風土が築かれている。ゆるやかな共同性を土台とし個々の生徒が「問いを立て、調べ、考え、言葉にする」過程の中で、学びを自分事のできるよう、一人一人の学びの文脈に寄り添い探究的な学習を進めていきたい。

(3) 指導観

日本の諸地域の学習においては、1年時に習得した資料活用の技能をもとに、小グループでの課題解決学習に臨み、主体的に学習課題の解決に迫れるよう単元を設計した。地域を眺めるための考察視点を定め、それぞれの地域がもつ地理的条件が、その特色や課題にどのように関わっているのかを捉えていく。各地域の学びを深めるために、社会的事象の地理的な見方・考え方(位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など)を働かせる問いを設定し、地図、統計、写真などの諸資料を活用し、多面的・多角的に考察することで、地域の特色を捉え、課題を見出していく。この日本の諸地域の学習で習得した、地域の特色や課題を見出す視点をもとにして、地域の在り方における、身近な地

域のよりよい街の「構想」へとつなげていく。なお社会科における日本の諸地域、関東地方の学習では、ここまで習得した知識を活用しながら、人口や交通を中核とし、都市的機能の集中、産業や情報の集積といった事象を中心に、「なぜそのような地域的特色が見られるのか」「どのような課題が生じているのか」「それらの課題が他地域との結び付きの中でどのように生じているのか」等の問いに基づいて学びを深めていく。

各地域の特色を捉える視点と地域的特色

	地域	地域的特色を捉える視点	地域的特色
1	中部地方	産業	気候や地形の違いから見える産業の特色
2	北海道地方	自然環境	寒冷な気候、厳しい自然環境と共に暮らす人々
3	近畿地方	歴史、交通と都市	歴史的景観の保全とニュータウンの形成
4	中国四国地方	人口、交通と村落	本州四国連絡橋が及ぼす影響と村落の実態
5	九州地方	自然環境、防災	温暖な気候と厳しい自然環境から生活を守る工夫
6	関東地方	人口、交通と通信	交通・通信の発達と首都機能
7	東北地方	伝統文化、防災	地場産業と伝統文化、災害の伝承

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

関東地方の地域的特色を理解し、地域で見られる課題を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して多面的・多角的に考察し表現する。

(2) 単元の評価規準 下の指導計画を参照

4 「日本の諸地域」の指導計画 (全 22 時間の計画)

(1) 中部地方(4時間扱い) 3、4時間目を除き小グループによる協働的な課題解決学習

中部地方では東京書籍の教科書の構成に沿って、地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核とし、それを成立させている地理的諸条件と関連付けて考える学習を通して地域的特色に迫るものである。また自然体験学習での実地研修の事後学習として GIS を活用して地形の特色を捉える学習を行った。

過程	時間	学習内容(言語活動の充実) ★小学校との系統性	重点を置く 評価の観点			学習活動に即した評価規準 (評価方法) テ・テスト 話・授業内での話し合い ワ・ワークシート
			知	思	態	
1	1	中部地方の自然環境と歴史とのつながり	○			中部地方の都道府県名、山地や平野などの位置や名称、歴史の舞台などについて理解している。(ワ)
2	1	中部地方の気候や地形と特色ある産業 ★わたしたちの生活と食料生産(5年) ★わたしたちの生活と工業生産(5年)	○			中部地方の産業を交通網や気候の特色、地形の特色などを諸資料から読み取り、産業と地理的諸条件と結びつけて中部地方の特色を説明している。(ワ、話)
3	1	菅平の土地利用※GISの活用①	○			識別標高図や年代別写真を組み合わせて活用し、夏と冬の土地利用の工夫について説明している。(ワ)
4	1	フォッサマグナとその周辺の地形調査※GISの活用②	○			断面図や景観写真を活用しフォッサマグナがどのようにしてできたのか説明している。(ワ)

(2) 北海道地方(2時間扱い)※小グループによる協働的な課題解決学習

北海道地方では東京書籍の教科書の構成に沿って、地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることを考える学習を通して、地域的特色に迫るものである。

過程	時間	学習内容(言語活動の充実) ★小学校との系統性	重点を置く 評価の観点			学習活動に即した評価規準 〈評価方法〉テ・テスト 話・授業内での話し合い ワ・ワークシート
			知	思	態	
1	1	北海道地方の自然環境と歴史とのつながり	○			北海道地方の山地や平野などの位置や名称、歴史の舞台などについてわかる。(ワ)
2	1	北海道の生活と自然環境 ★わたしたちの生活と環境(5年) ★わたしたちの生活と食料生産(5年)	○			北海道地方の自然環境や人々の生活の工夫をを資料から読み取り、北海道地方の特色を説明している。(ワ、話)

(3) 近畿地方(2時間扱い)※小グループによる協働的な課題解決学習

近畿地方では東京書籍の教科書の構成に沿って、地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを国内外の他地域との結び付きなどと関連付け、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景が関わっていることについて考える学習を通して地域的特色に迫るものである。

過程	時間	学習内容(言語活動の充実) ★小学校との系統性	重点を置く 評価の観点			学習活動に即した評価規準 〈評価方法〉テ・テスト 話・授業内での話し合い ワ・ワークシート
			知	思	態	
1	1	近畿地方の自然環境と歴史とのつながり	○			近畿地方の都道府県名、山地や平野などの位置や名称、歴史の舞台などについて理解している。(ワ)
2	1	近畿地方の都市の歴史的な成り立ちと産業	○			近畿地方の都市の成り立ちを歴史的な背景をもとにした諸資料から読み取り、近畿地方の成り立ちと産業との関わりを説明している。(ワ、話)

(4) 中国四国地方(3時間扱い)※小グループによる協働的な課題解決学習

中国四国地方では東京書籍の教科書の構成に沿って、地域の人口分布や人々の移動、都市・村落の立地や機能に関する事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連づけ、過疎・過密問題の解決がこの地域の課題となっていることなどについて考える学習を通して地域的特色に迫るものである。

過程	時間	学習内容(言語活動の充実) ★小学校との系統性	重点を置く 評価の観点			学習活動に即した評価規準 〈評価方法〉テ・テスト 話・授業内での話し合い ワ・ワークシート
			知	思	態	
1	1	中国四国地方の自然環境と歴史とのつながり	○			中国四国地方の都道府県名、山地や平野などの位置や名称、歴史の舞台などについて理解している。(ワ)
2	1	中国四国地方の自然環境と農業、人口の偏り ★わたしたちの生活と食料生産(5年)	○			中国四国地方の気候、気候を生かした産業、地域による人口の偏りを諸資料から読み取っている。(ワ、話)
3	1	中国四国地方で見られる都市と農村の変化とその原因	○			都市に人口が集中する理由と過密による問題、山間部の農村で過疎化がおこっていること、それらの原因を諸資料から読み取り、中国四国地方で見られる地域的特色を説明している。(ワ、話)

(5)九州地方(4時間扱い)※小グループによる協働的な課題解決学習

九州地方では東京書籍の教科書の構成に沿って、地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付けて考える学習を通して地域的特色に迫るものである。

過程	時間	学習内容(言語活動の充実) ★小学校との系統性	重点を置く 評価の観点			学習活動に即した評価規準 (評価方法) テ・テスト 話・授業内での話し合い ワ・ワークシート
			知	思	態	
1	1	九州地方の自然環境と歴史とのつながり	○			九州地方の都道府県名、山地や平野などの位置や名称、歴史の舞台などについて理解している。(ワ)
2	1	九州地方の自然環境と生活	○			九州地方の気候、地質学的要因による自然災害が起こる仕組みを諸資料から読み取っている。(ワ、話)
3	1	九州地方の産業 ★わたしたちの生活と食料生産(5年) ★わたしたちの生活と工業生産(5年)	○			九州地方の自然環境を生かした農業や、エネルギー革命による北九州工業地域の衰退や工業化による公害を諸資料から読み取っている。(ワ、話)
4	1	九州地方の環境に起因する諸問題 ★わたしたちの生活と環境(5年)	○			九州地方に多い暴風雨や都市で起こるヒートアイランド現象などの災害やその対策を工夫する生活などを諸資料から読み取っている。(ワ、話)

(6)関東地方(4時間扱い)※3、4時間目を除き小グループによる協働的な課題解決学習

関東地方では東京書籍の教科書の構成に沿って、地域の交通網に関する特色ある事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や世界との結び付きなどと関連付けて考える学習を通して、地域的特色に迫るものである。

過程	時間	学習内容(言語活動の充実) ★小学校との系統性	重点を置く 評価の観点			学習活動に即した評価規準 (評価方法) テ・テスト ポ・一枚ポートフォリオ 話・授業内での話し合い ワ・ワークシート
			知	思	態	
1	1	関東地方の自然環境と歴史とのつながり	○			関東地方の都道府県名、山地や平野などの位置や名称、歴史の舞台などについてわかっている。(テ)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 単元を貫く学習課題 「関東地方はどんな地方と言えるだろうか」 </div>						
2	1	日本の中心である東京と関東の農業 ★わたしたちの生活と環境(5年) ★わたしたちの生活と食料生産(5年) ★わたしたちの生活と工業	○			関東地方の交通網の特色と東京を中心とした人々の移動などを諸資料から読み取り、関東地方の特色を説明している。(ワ、テ)
3 本 時	1	東京への人とモノの集中から見えてくる関東地方の課題(本時) ★情報化した社会と産業の発展		○		首都東京の特色を理解し、一極集中が起こる要因やその課題について、地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し表現している。(ワ、話)
4	1	小単元のまとめ 関東地方の地域的特色			○	関東地方について、よりよい社会の実現を視野に、ここで見られる課題を自分の言葉で説明している。(ポ)

(7) 東北地方(3時間扱い) ※3時間目を除き、小グループによる協働的な課題解決学習

東北地方では東京書籍の教科書の構成に沿って、地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象を中核として、それを自然環境や災害などの歴史的背景などと関連付けて考える学習を通して、地域的特色に迫るものである。

過程	時間	学習内容(言語活動の充実) ★小学校との系統性	重点を置く 評価の観点			学習活動に即した評価規準 〈評価方法〉テ・テスト 話・授業内での話し合い ワ・ワークシート
			知	思	態	
1	1	東北地方の自然環境と歴史とのつながり	○			東北地方の都道府県名、山地や平野などの位置や名称、歴史の舞台などについて理解している。(ワ)
2	1	東北地方の伝統的な文化 ★わたしたちの生活と環境(5年)	○			東北地方の伝統的な食文化、祭りや伝統的な町並みなどの特色ある事象を気候と関連付ける諸資料を読み取り、東北地方の特色を説明している。(ワ、話)
3	1	東日本大震災から14年(災害から街、人の命を守るために、必要なこと。)			○	よりよい社会の実現を視野に地域の課題に関わろうとしている。(ワ)

5 本時の学習 関東地方(第3時)

(1) 本時の目標

- ・首都東京の特色を理解し、一極集中が起こる要因やその課題について、地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し表現する。(思考力・判断力・表現力)

(2) 本時の展開(1時間扱い)

学習活動・学習内容	・評価と指導上の工夫 ◎言語活動の充実 □評価の観点
<p>1 本時の学習の方向性を確認する 都心(千代田区)の人口推移に関するグラフを提示し人口推移の特徴をつかむ。(個→全体)</p> <p>2 グラフが東京のどこの地域のものか考える過程で以下の内容を捉える。またなぜこのような現象が起きているのか要因を考察する。(班→全体)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・かつて都市から郊外へ人口が流出した。 ・都心周辺の再開発により近年人口が増えている。 ・郊外や都心周辺からの通勤通学により昼間人口が多い。 </div> <p>3 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習課題：東京の地域的特色とは何だろう？地域間の結び付きの視点から考えよう。</p> </div> <p>4 昼間に人口が集中することで起こっている問題(現象)について考える。(全体)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>交通渋滞・事故の増大、災害時の混乱・被害拡大、ヒートアイランド現象、郊外・地方との格差拡大、地価の高騰など</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・どこの地域のグラフかを伏せることで、生徒の興味関心を高める。 ・都心にもかかわらず人口が少ないことに注目させる。※(昼夜間人口の違いに気づかせる。) <p>◎交通網、地価、地形などを表す地図資料やGIS、RESAS等を活用し、根拠をもとに話し合えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考える手立てとして、景観写真(住居やコンビニ等)を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・写真資料を提示し視覚的に捉えられるようにする。

5 都心で起こっている問題の背景と要因を考える。

(班→全体)

中心発問

- ①都心で起こっている問題がなぜ起こっているのだろうか？
- ②その要因について、「地域間の結び付き」の視点から考察するとどんなことが見えてくるだろうか？

①一極集中を背景として都心で様々な問題が起こっている。

②一極集中が起こる要因

【首都機能】と【交通網の発達】

官庁、企業、大学が集まっている。

交通網が都心へ伸びている。

追究する問い

一極集中が起こる東京の地域的な課題とは？

- ・災害リスクの集中
交通・通信・金融の混乱
→被害が「点」ではなく「国全体」に波及する
- ・地方経済の弱体化
地方の若者の流出と産業の衰退と地域間格差の拡大
- ・都市部の過密問題
住宅価格高騰、通勤混雑など

6 まとめ

東京は首都機能を有しており、一極集中が起きている。経済効率を高める側面があるが一方で、災害、地域格差、社会的分断といった構造的なリスクを抱えている。

・首都機能について捉えなおすための、繰り返し発問をする。(そもそもなぜ東京に人が集まるのか?)

地理的な見方・考え方を働かせる問いと資料の工夫

※地域間の結び付き(空間的相互依存作用)の視点を働かせて考察する。

◎班で話し合う際、地図を用いることで、「位置」や「分布」都心と都心周辺、郊外の「結び付き」などの視点を働かせ、情報を整理しながら考えをまとめられるようにする。

□一極集中が起こる要因やその課題について、地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現) ※ (ワ)

(3) 板書計画

学習課題：東京の地域的特色とは何だろう？地域間の結び付きの視点から考えよう。

グラフ A

※都心

課題

都心で見られる問題

交通渋滞・事故の増大、災害時の混乱・被害拡大、ヒートアイランド現象、郊外・地方との格差拡大、

なぜ？ 首都機能としての東京



まとめ

東京は首都機能を有しており、一極集中が起きている。経済効率を高める側面があるが一方で、災害、地域格差、社会的分断といった構造的なリスクを抱えている。

- ・かつて都市から郊外へ人口が流出した。
- ・都心の再開発により近年人口が増えている。
- ・郊外や都心周辺からの通勤通学により昼間人口が多い。